

2026年度 第2回 実践交流会

「多様性が活きる日本語教育実践」

～子どもを多角的に把握し、学びの場をつくる～

日本語教育・支援の現場は、子どもたちも多様（言語・文化背景、来日の経緯や滞日期間、ことばの力や認知・学力の発達状態）であれば、教育・支援現場も多様（地域の多文化化の状況、組織・団体としての考え方、日本語教育・指導の仕組み、人的配置）、そして携わる者も多様（立場・教育経験・教育観・言語指導の知識・技能）です。こうした中で、子どもたちがことばを豊かに育むために、教育者・支援員の皆さんは創意工夫をして教育・支援活動に取り組まれています。その皆さんに集っていただき、実践を語り合い・学び合う場がこの実践交流会です。

第2回のテーマは「子どもを多角的に把握し、学びの場をつくる」です。午前は、実践を共有する活動を行います。教育・支援に携わる皆さんが取り組んでいる授業や教育活動、イベント、また教育者・支援者向けの研修や勉強会などについて、紹介し合います。「参加者（子ども・教育者・支援者）が、それぞれの持ち味をどう活かせたのか？」「さらに発揮できるように、学びの場にどんな工夫を施せばよいだろうか？」といった視点をもって、互いに実践を振り返り、学びます。午後には、子どもたちの特性を多角的に、そして複層的にとらえながら、研究・支援活動をなさっているお二人から、取り組みとその成果についてご講話いただき、意見交換を行います。

具体的なアイデアを共有するとともに、その背後にある子ども観、学習観、言語観を交差させながら、今後の実践を展開するための省察に基づく気づきと、新しい発想・次なるアイデアを得る空間にしたいと思います。参加なさる皆さんにとって、次なる「子どもたち、現場、教育者・支援者の多様性が活きる実践」に挑む契機となれば幸いです。



日 時：2026年10月4日(日)

10:00～12:00 第1部 対面のみ

実践交流「多様性が活きる日本語学習の場をつくる」

13:00～16:00 第2部 ハイフレックス(対面・オンライン)

講話・意見交換「子どもを多角的に捉え、学習をデザインする」

対面会場：東京学芸大学 講義棟

定 員：午前 対面(午前) 20人程度

午後 対面 20名程度 / オンライン100人程度

対 象：子どもの日本語教育に教育者・支援者として関わっている方・関心をお持ちの方

参加費：無料

<対面参加の留意点>

対面の実践交流はご自身の活動・取組を紹介し合う活動です。実践者自身のご経験から、各現場の状況、具体的な実践例を学ぶことができます。同時に参加者には、個人情報等に関しては守秘が求められます。この点をご理解の上ご参加ください。

参加申し込みについて

グーグルフォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/9Ems1Mq5PwpDF8pe6>

午前(対面)・午後(対面、あるいはオンライン)の別を選択いただきます。

申込期間：9月1日(火)～9月25日(金)



プログラム

午前：対面

会場(東京学芸大学)にお越しいただきます。

- 10:00 開会・趣旨説明
10:10 参加者間の実践交流:グループセッション(1グループ3人程度)
進め方の説明
実践交流(40分×2セッション) 一人ご紹介と質疑応答で15分程度
11:30 リフレクション
12:00 閉会

実践交流の進め方とお持ちいただきたい資料

グループで参加者自身が実践の様子がわかる資料を示しながら、教育活動・授業・支援の具体について紹介し合います。経験から学び合うことを目的とした活動です。**発表会ではありません。また、この交流のために資料を作成する必要はありません。実践時に利用したもの、記録した資料等で十分です。**

＜実践交流の進め方＞

- 1 3人程度のグループでの活動
- 2 お一人15分程度の持ち時間で交流
(実践を紹介し、質疑応答)
- 3 リフレクション活動として、相互の経験から気づいたこと、新たな問い、得られた視点・アイデアを共有します。

＜お持ちいただきたい資料＞

- 例1)地域の支援活動の取り組みの場合－様子がわかる写真や活動で利用した素材、参加者の感想やコメント等
例2)授業実践の場合－授業の実施計画、利用した教材・教具、児童生徒の成果物、印象に残った発言等
例3)研修・勉強会の場合－実施計画、テーマや利用した資料、参加者のコメント等

午後：ハイフレックス(対面・オンライン)

いずれの参加か、申し込み時にご選択ください。

- 13:00 開会
13:10 講話1 読み書きに困難のある児童に対する日本語指導の事例研究
ーインクルーシブな日本語指導に向けてー
相磯友子さん(千葉明德短期大学)
14:15 講話2 「ことばか、発達か」を超えて ～発達臨床の視点から～
東谷知佐子さん(NPO法人 HATI JAPAN 多文化多言語の子ども発達支援)
15:20 全体討議
15:50 まとめ・閉会

全体討議の進め方

ご講話に関連する問いを設定し、参加者の皆さんにご意見を募ります。それを共有しつつ、発題者2名とディスカッションを行います。オンライン参加の皆様には、オンライン上のアプリを利用してご意見を寄せていただけるようにします。ぜひ、積極的なご参加をお願いいたします。

お問い合わせ

東京学芸大学

先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット

担当：齋藤ひろみ・谷啓子・米本和弘・工藤聖子・稲田直子

knihongo@u-gakugei.ac.jp